

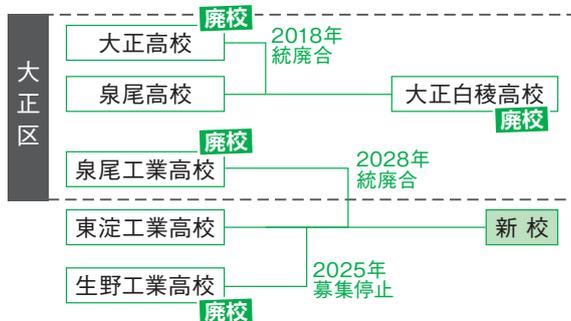
「地域の学校」をまもれ！！

少子化をチャンスに30人学級の実現を！



えっ!!大正区から府立高校がなくなる！？

今回廃校の対象となった大正白稜高校は実は6年前に2つの府立高校の統廃合でできた学校。近くの泉尾工業高校もすでに3校統廃合(2028年予定)による廃校が決まっています。この結果大正区では10年間に3校が廃校になり、府立高校がゼロになってしまいます。“自由競争”と“市場原理”による学校つぶしで地域の教育環境が破壊されています。



そもそも学校の「定員」ってなに？

学校の定員とは、教育条件維持のためそれ以上は受け入れられない「上限」であり、満たさなければならない「下限」ではありません。しかも、学びたいと願う子どもたち全員に学びの場を保障するため、あらかじめ大きく設定されています。今年度入試では、公立私立あわせて4792人分ゆとりがある定員が設定されました。さらに府立高校では、前年度より中卒生が331人減る中、逆に定員を400人増やして募集が行われました。教育委員会が政策的につくり出した「定員割れ」をまるで学校の責任のように問題視し、廃校にするなど本末転倒もはなはだしいことです。財政効率最優先で統廃合をすすめるのではなく、地域に必要な学校をきちんと維持することこそ行政の役割ではないでしょうか。

少子化なのに なぜこんなに 不合格者が！？



少子化にもかかわらず、府立高校では毎年「定員割れ」をはるかに上回る数の中学生が入試で不合格になっています。学区撤廃、公私比率撤廃、進学指導特色校設置など、競争をあおる施策の結果です。高校入試は絶対失敗できない入試。通学区の復活などで競争を緩和し「希望者全入」こそめざすべきです。

不登校増・通信制進学率増…

子どもたちの“居場所”となる学校へ、教育条件改善を！

小中学校で不登校が増加、全日制高校の進学率が低下し通信制進学率が上昇しています。学校が子どもたちにとって「息苦しい」場所になっているからではないでしょうか。教職員の増員、30人学級や20人学級の実現で、一人ひとりに丁寧に接することができる教育が強く求められています。それなのに「1クラス40人・1学年7クラス」を不動の前提にして高校つぶしをすすめる再編整備計画は見直しが必要です。

